



期末考査の出来具合はいかがでしたか？
今年度から朝読書は夏休み前に設定しましたので、じっくり読書に取り組みましょう。当日忘れた人には、こちらが準備した本を読んでもらうこととなりますので、読みたい本は前日までに必ず準備しておいてください。

今は昔。高体連期間中、学校では読書の時間がありました。
今回、みんなに書いてもらった感想を紹介します。本選びの参考に。。。

感想いろいろ!!

『サラバ』 西加奈子／著

この本は友だちに勧められました。
まだ、あまり読んでいないのですがこの本に出てくる家族はとても私の家族に似ているなと思いました。
(2年)

朝読書で読む本は、
漫画・雑誌・教科書・
参考書・問題集・
電子書籍以外で
準備してください。



『最弱ナイン』 柳川悠二／著

部員もいない、グラウンドもない
野球道具もない。。。
そんな、最悪な状況から
はいあがっていく姿に
ぐっときました。
(1年)

『豆の上で眠る』 湊かなえ／著

不思議な世界観の作品でとても
引き込まれました。
本当に姉なのか。。。
なかなか真実がわからず、
ドキドキしました。
(2年)

『何者』 朝井リョウ／著

この本は就活をする6人の
人間関係がメインでかかれています。
いろんな心情が行き来していて、
共感できる部分がたくさんあった。
SNSについても書かれていて、
現代に合っていてSNSについての
使い方をもう一度考えさせられた。
(2年)

『キッチン』

吉本ばなな／著

主人公の祖母(家族)を亡くした
悲しみや田辺家を出なければ
ならない辛さが、淡々とした
文章の中に鮮明に描かれていた。
また、情景描写が人物ときれいに
リンクしていて、テンポのよい
文章の中でも深く読み進める
ことができた。
(2年)

『おしまいの日』 新井 素子／著

妻と夫の気持ちのすれ違いによって、
自分の思ったことを話し合えない状況に
心がもやもやしました。話し合うことで
ぶつかることもあります。心にひめて
いるよりはよいと思う話でした。
(2年)

『珈琲店タレーランの事件簿』

岡崎琢磨／著

京都が舞台の「ご当地ミステリ」ではあるが、身近に感じられるいわゆる
謎解きの短編集となっていて非情に
読みやすかった。女性バリスタが豆を
挽きながら事件を解く際に「その謎、
たいへんよく挽けました」と言って
真相を説明する様がとても
カッコいい
(2年)

『水沢文具点』 宮澄加奈／著

登場人物の気持ちの移り変わりが
細やかに表現されていて
読みやすかった。
まだ第一章しか読めていないので、
その後の話が気になった。
(2年)

『砂漠』 伊坂幸太郎／著

大学生活を思い出させるような内容で
懐かしくなった。導入部分と少ししか
読めなかったのが残念。

「その気になれば
砂漠に雪を降らせられる」
という表現が最後にどうつながるか
気になる。
(2年)

『月と六ペンス』

サマセット・モーム／著

幸せなくらしをしていたストリックランド
という人が、すべてを捨てて何かに
挑む話でした。
最後まで読めなくてよくわからなかった
けど、おもしろかったのでまた読みたいです。
(2年)

『空飛ぶタイヤ』 池井戸潤／著
走行中のトレーラーのタイヤが外れて、人が亡くなってしまった事故に対する責任の所在を題材とした本でとても興味深い話になっている。最後まで読めていないのでこのあとその責任がどう移っていくのか楽しみである。
(2年)

『オーダーメイド殺人クラブ』 辻村深月／著

この本は前から読み進めているのですが、主人公の学校や家族に対する考え方がかなり共感できて面白いです。結構長い小説でまだ半分弱しか読めてないのでできるだけ読書に時間を割いていきたいです。(2年)

『そして生活はつづく』 星野源著

この本は、エッセイなのでいろいろな経験談や普段思うことが細かく書かれています。「こういうのよくあるな」と共感できることも多々あり、読んでいて笑ってしまうような楽しい本でした。(1年)

『陽だまりの彼女』 越谷オサム 著

現代の話と、中学時代の過去の話が上手く切り替わり、現在と過去の違いがよくわかりおもしろかった。中学時代にいじめられっだった真緒が仕事ができる人になっていた時の主人公の反応がよかった。(1年)



『旅をする木』 星野道夫 著

自然や時間、生と死について考えさせられました。景色を想像しながら読めます。「きっと情報があふれる世の中で生きている僕たちはそんな世界が存在していることも忘れてしまっているの shouldn't ね。」という一文が印象にのこりました。
(1年)

『掟上今日子の備忘録』 西尾維新 著

ドラマでも見たことある話でドラマのままのテンポでとてもおもしろかったです。『私に殺意を持つ犯人と共に旅行するほうが私に好意的な名探偵と旅行するよりいくらか安全だ』という言葉がとてもおもしろいと思いました。(2年)

『かがみの孤城』

辻村深月 著

途中までしか読めなかったけど、主人公の過去がかがみの中の世界でおこることに関連して、だんだん分かっていくのでとても読みやすかった。ファンタジーなのに描写がわかりやすくかがみの中の世界のことが想像しやすかった。(1年)

『世界から猫が消えたなら』

川村 元気 著

いきなり「明日死にます」と言われた主人公のように誰でもみんな自分の命の長さは知らないで、1日1日を大切に生きようと思いました。主人公は電話や映画は消したのに、猫は消しませんでした。それは猫のキャベツが唯一、家族と主人公をつなぐ存在だったからではないかと思いました。「かけがえのないもの」に気づかされる物語です。
(1年)

『ホームレス中学生』 田村裕 著

1回読んだことある本だけどとても感動しました。自分とはかけはなれた生活を中学生がしていて、とてもつらかったです。でもそのおかげで人のあたたかさや物の大切さを知れてよかったです。(1年)

『君は月夜に光り輝く』 佐野徹夜 著

発光病をもっている女性とその人と仲のよい男性とのかけあいがおもしろかった。一人の大学生の生き方も書かれていて、次が気になる話だなと思った。(1年)



* 予約・リクエスト、随時受け付けてます。
この便りを見て、読んでみようと思う本があったら図書館へGO！